

# 日本野球連盟(社会人野球)内規

(2019年度)

## 1. 使用バットについて

日本野球連盟では、社会人野球で使用できる木製バットについて以下のとおりとする。

- (1) 公認野球規則「3. 02 バット」によるものとする。ただし、BFJアマチュア野球規則委員会と全日本野球バット工業会との合意に基づくバットでなければならない。  
※BFJアマチュア野球規則委員会と全日本バット工業会の合意に基づくバットとは、所定の位置に「BFJロゴマーク」が押印されているものである。
- (2) 前記(1)のただし書きにもかかわらず日本プロフェッショナル野球組織により承認を受けているバットについては使用を認める。  
※日本プロフェッショナル野球組織により承認を受けているバットとは、所定の位置に「NPBロゴマーク」が押印されているものである。
- (3) 前記(1)にもかかわらず木片の接合バット及び竹の接合バットの使用を認める。  
ただし、全日本バット工業会より公示されているブランドのものでなければならない。  
(全日本バット工業会加盟ブランドはJABAホームページに掲載)
- (4) テープ部を樹脂等で補強したバットの使用を認める。ただし、公認野球規則3. 02(c)に記載の範囲内とする。また、前記1. から3. のいずれかに該当するものでなければならない。
- (5) 着色バットの使用を認める。ただし、使用できる着色バットは、BFJアマチュア野球規則委員会運用基準によるものとする。

### 【着色バットに関する運用基準】

アマチュア野球で使用できる着色バットは以下のとおりとする。

- ①使用を認める着色バットは、黒色・ダークブラウン系、赤褐色系及び淡黄色系とする。
- ②木目を目視できるものとする。
- ③拙劣な塗装技術を用いていないものとする。(例えば、ボールに塗料が付着するなど。)

- (6) 前記(3)によるバットについては、着色バットに関する運用基準の②を適用しないものとする。
- (7) バットのグリップエンド以外にチーム名および個人名を表記することはできない。

## 2. グラブについて

- (1) 投手用のグラブに個人名の刺繍を入れる場合、公認野球規則(3. 07 b)どおり、その色はグラブ本体と同色とする。なお、個人名以外にチーム名および背番号の刺繍入れも認めるが、個人名を含めそれらは親指の付け根部分1ヶ所に限るものとする。  
また、個人名刺繍は最長でもグラブの親指部分の半分を超えないものとする。
- (2) 投手用グラブのウェッジには、同色であれば背番号のプレス、刻印(レーザー刻印)または切り抜きを認める。ただしその大きさは、縦3. 5センチ横3. 5センチ以内とする。
- (3) 投手用グラブのはみ出し部の色彩は、グラブ本体と同系色で目立たないもの、もしくは革の自然色とする。
- (4) メッシュ入りの投手用グラブについて
  - ①メッシュ入りのグラブを認める。ただし、公認野球規則3. 07(a)【注】に規定の通り、  
本体(捕球面、背面、<sup>ウェブ</sup>網)は1色でなければならない。
  - ②メッシュの部分と他の皮の部分の色が異なるグラブおよび他の部分が、たとえば色褪せて本来の色を失ったり、変色したりして明らかに“二色”に変わったグラブは、上記規則に抵触すると判断し、その使用を禁止する。
- (5) 野手のグラブについて  
公認野球規則3. 07(a)「守備位置に関係なく野手はPANTONE®の色基準14番よりうすい色のグラブを使用することはできない。」を2017年度より適用する。(白系のグラブ)

3. ヘルメットの着用について
  - (1) ベースコーチは、攻撃期間中、コーチボックス内においてヘルメットを着用しなければならない。
  - (2) 攻撃期間中、打者および塁上の走者は両耳フラップヘルメットを着用しなければならない。
4. 試合から退いたプレーヤーが、ベースコーチになることを認める。(5. 10 d【注】)〔社〕
5. 球審によって打ち切りを命じられた試合(コールドゲーム)が正式試合となる規程回数「五回」を「七回」に置きかえて、規則7. 01(c)の規程を適用する。〔アマ関連・社〕
6. 社会人野球では、各大会の規約・申し合わせ等の定めにより次の「延長回に関わる特別規則(タイ・ブレイク)」を適用することができる。
  - (1) 延長回に関わる特別規則(タイ・ブレイク)
    - ① 各大会規約等により定められた回の攻撃を完了し、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、無死走者1、2塁の状態から行うこととする。
    - ② 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順のものとする。
    - ③ この場合の走者は、前項による打者の前の打順のものが1塁走者、1塁走者の前の打順のものが2塁走者となる。
    - ④ この場合の代打及び代走は認められる。
  - (2) チーム及び個人記録  
チーム及び個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意することとする。
    - ① 投手成績
      - ・ 規定により出塁した2走者は、投手の自責点とはしない。
      - ・ 完全試合は認めない。
      - ・ 無安打無得点試合は認める。
    - ② 打撃成績
      - ・ 規定により出塁した2走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁等は記録する。
      - ・ 規定により出塁した2走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。
7. 正式試合の最終回の裏かまたは延長回の裏に規則6. 01 g規定のプレイで三塁走者に本塁が与えられて決勝点になる場合には、打者は一塁に進む義務はない。〔アマ〕
8. 投手がスクイズプレイを防ぐ目的で、意識的に打者の背後へ投球したり、捕手が意識的に打者の背後にとび出したところへ投球したりするような、非スポーツマン的な行為に対しても規則6. 01 gを適用し、走者には本塁を与え、打者は打撃妨害で一塁へ進ませる。〔アマ〕
9. ワインドアップポジションをとった右投手が三塁(左投手が一塁)に踏み出して送球することは、投球に関連した足の動きをして送球したとみなされるから、ボークとなる。(5. 07(1))〔アマ〕
10. 投手が規則6. 02(c)の規定に違反した場合、ペナルティに代えて、審判員はそのつど警告してそのボールを交換させる。〔アマ〕
11. 「投手が如何なる異物でも、身体につけたり、所持すること」を禁止する規則の適用に際しては、「投球に影響を及ぼすようなもの」との解釈とし、監督より申し出があり、審判員が認めたものに限って許可することとする。(6. 02(c) (7)ならびに同【原注】および【注】)〔社〕
12. 規則6. 02(8)のペナルティの後段を適用せず、このような遅延行為が繰り返されたときは、ボールを宣告する。(6. 02(c)【注2】)〔アマ〕

13. 走者がいるとき、投手が、投手板から軸足をはずして、走者のいない塁に送球した場合、または、投手板上からでも、軸足を投手板からはずしても、塁に入ろうとしていない野手に送球した場合には、投手の遅延行為とみなす。(6. 02(c)(8)、6. 02(d)(4)、6. 02(d)(8)) [アマ]

**14. 社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則を遵守する。**

15. 一試合につき攻撃側の話し合いを3回まで認める。攻撃側の話し合いは、監督が打者、走者、打席に向かう次打者またはコーチと話し合うためにタイムをとって試合が遅れる場合にカウントされる。なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数は関係なく、三イニングスにつき、1回の話し合いが認められる。ただし、攻撃側の責めに帰せないタイム中(例えば、守備側がマウンドに集まっているとき、選手が負傷したとき、選手の交代ときなど)に話し合いを持っても、さらに遅延を招かない限り、回数にはカウントされない。

16. 審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあるときには、監督と当該プレーヤー、または主将と当該プレーヤーだけが、その裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請することができる。(8. 02(b)) [社]

17. 指名打者ルールを使用する。(5. 11) [社]

18. 投手は、捕手またはその他の野手または審判員からの返球を受けてから走者が塁にいない場合は12秒以内に、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない(20秒ルール)。違反した場合、走者が塁にいない場合はただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が二度繰り返したら、以後審判員の判断でその都度ボールを宣告する。

# 社会人野球申し合わせ事項

(2019年)

1. 試合中、次打者以外はグラウンド内で素振りをしていない。ベンチ裏の専用スペースを利用する。  
また、次打者も投球時には低い姿勢で待機すること。
2. 試合中の外野方面へのランニングは、イニングの合間のみとする。  
ただし、プレイがかかる前には全員がベンチ内に戻ること。
3. お互い社会人として程度の悪い野次は厳重に慎むこと。
4. スピードアップに関する監督申し合わせ事項を遵守する。
5. ベンチへ持ちこむメガホンは2個までとし、監督・コーチ等(選手以外)が指示を出す場合のみに使用を限定する。
6. 選手のリーダーが音頭を取り、声を揃えて拍手をする行為は自粛すること。
7. 出迎えを禁止する。  
(1) 本塁打・選手交代・攻守交替などベンチから出た出迎えを禁止する。  
(2) 1・3塁ベースコーチは、ホームランを放った打者走者を出迎えるためにホームベース付近へ行くことを禁止する。
8. ロージンバックを多用する投手については、審判員がユニフォームのズボンのポケットにロージンバッグを入れるよう指示する場合がある。ただし、その投手がマウンドを降りる際には、元の位置(投手板付近)にロージンバックを戻すこと。
9. 投手交代の際、それまでブルペン等で新たに登板する投手のボールを受けていた捕手は、試合に出ている捕手に対し、アドバイス等のために近寄らず、すみやかにベンチへ戻ること。  
[監督・コーチ(ベンチからのアドバイス)の指示と同様と判断し、タイムの回数にカウントすることもある。]
10. 5回終了時のグラウンド整備は行わないこともある。
11. 次打者のウェイトニング・サークルには、マスコットバット・ロージンバック・バットスプレー(各1個)以外のものは持ちこまない。(球場があらかじめ用意しているものは除く。)リング、鉄棒、木製の長尺のバット、及び金属製のマスコットバットの使用を禁止する。
12. **試合中に発生した負傷者に対する治療時間の目安は5分とする。**
13. 塁上の走者およびベースコーチが捕手または守備側のサインを盗み、打者に知らせる行為は、アンフェアであることから禁止する。
14. 走者が、フットガードやアームガード、走塁用手袋等の着脱は速やかに行うこととする。
15. 内野手のボール回しを認める。(一回りのみ)ただし、試合時間が極端に長引くことが予想される場合には、球審の判断で途中からボール回しを禁止する場合もある。
16. 打者交代時、監督から球審への手法の簡素化を認める。(当該打者の背番号を見せる等)
17. すそ幅の広いストレートタイプズボンの着用を禁止とする。
18. 加盟チームは、原則として2種類のユニフォームを用意すること(上着のみでも可)とし、一塁側の場合は白、三塁側の場合は白以外の色をそれぞれ基調としたものを着用するものとする。  
ただし、特別な事情があり、当該試合の主催者が認めた場合はこの限りではない。
19. 試合中、選手が装着するマウスピースは、白色または透明の色に限定する。
20. ネックウォーマーは、公式戦での使用は認めない。  
ただし、ベンチ内および試合前のウォームアップ中の着用は認める。
21. 手甲ガードの使用を認める。ただし色規制は、黒またはアンダーシャツと同色の一色のみとし、商標ならびに氏名の記載などは認めないものとする。

# 社会人野球注意すべき規則

1. 投手は、投手板に触れて捕手からのサインを受けなければならない。(5.07 a)
2. 投手は、セットポジションをとるに先立って、片方の手を下に下ろして身体の横につけていなければならない。この姿勢から中断することなく、一連の動作でセットポジションをとらなければならない。(6.02 a(8)[原注])

## 【規則適用上の解釈】

走者がいるとき、軸足を投手板に触れている投手が、捕手(野手を含む)にサインを出すか、あるいは受けるなど手を動かして肩や胸等に触れる動作をした場合には、本規則に違反するのでブークとなる。又、軸足を投手板からはずして同様な動作をした場合には、遅延行為とみなされ、ブークとなる。(6.02 a(8))

3. 投手が投手板に触れているとき、走者のいる二塁へは、その塁の方向に直接ステップすれば偽投してもよいが、一塁または三塁と打者への偽投は許されない。(6.02 a(8)[注])

## 【規則適用上の解釈】

投手板に触れている投手が、投げる方の手にボールを持たないで塁に送球する真似だけして、実際に送球しなかった(偽投)場合には、遅延行為とみなされブークとなる。(6.02 a(8))

4. 捕手はボールを持たないで、得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利はない。塁線(ベースライン)は走者の走路であるから、捕手は、まさに送球を捕ろうとしているか、送球が直接捕手に向ってきており、しかも充分近くにきていて、捕手がこれを受け止めるにふさわしい位置をしめなければならなくなったときか、すでにボールを持っているときだけしか、塁線上に位置することができない。この規定に違反したとみなされる捕手に対しては、審判員は必ずオブストラクションを宣告しなければならない。(6.01 h[付記]、アマ内規⑩ 3)

## 社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則

公益財団法人日本野球連盟  
公益財団法人全日本大学野球連盟

公益財団法人日本野球連盟並びに公益財団法人全日本大学野球連盟は、試合のスピードアップを図るため、以下のとおり共通の特別規則を制定することに合意する。

1. 投手の「準備投球」は公認野球規則 5.07 (b) に準ずる。(時間、球数の制限はない。) また、試合に出場している投手のベンチ横及びブルペン (室内を含む) でのキャッチボールを禁止する。
2. 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。  
違反した場合、球審は走者が塁にいない場合はただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。  
なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。
3. 監督またはコーチが投手のもとへ行くことに関して、規則 5.10 (1) を適用する。
4. 監督またはコーチが1試合 (9イニングス) に投手のもとへ行ける回数を3回までとする。この場合、投手を交代させた場合は回数には数えない。  
3回投手のもとへ行ったら、4回目以降に行けば、そのときの投手は自動的に試合から退かなければならない。  
スピードアップの観点から、監督またはコーチが捕手を呼びよせる行為も同様とする。  
なお、延長回に入った場合には、規則 5.10 (1) の規定を適用する。
5. イニングの途中で投手を交代させる際に監督またはコーチが投手のもとへ行き、新しい投手が準備投球を始めた後もそのまま留まっていた場合には1回に数える。  
また、イニングの初めから投手を交代させる場合においても、監督またはコーチがマウンドに行った場合1回に数える。

6. 監督またはコーチが4回目に投手のもとへ行くとき、または1イニングに2回目に投手のもとへ行くときは、監督は投手のもとへ行く前に球審に投手の交代を告げなければならない。
7. ダブルスウィッチ（投手交代と同時に野手も交代させて、打撃順を入れ替える）の場合、監督はファウルラインを超える前に、複数の交代と入れ替える打撃順を球審に通告しなければならない。監督またはコーチがファウルラインを超えてしまえば、その後にダブルスウィッチすることはできない。  
(5.10 (b)【原注】)
8. 監督またはコーチが投手のもとに行った場合、審判員がタイムをかけてから45秒以内に打ち合わせを終了する。
9. 内野手（捕手を含む）が投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人だけとする。  
監督またはコーチが投手のもとに行ったときも1人の内野手だけ（この場合は捕手を含まない）が投手のもとへ行くことが許され、そしてそれは内野手が投手のもとへ行った回数に数えられる。  
なお、投手交代により新しく出てきた投手が準備投球を終えた後、捕手が投手のもとへ行っても、捕手が投手のもとへ行った回数には数えない。
10. 1試合につき攻撃側の話し合いを3回まで認める。攻撃側の話し合いは、監督が打者、走者、打者席に向かう次打者またはコーチと話し合うためにタイムをとって試合が遅れる場合にカウントされる。  
なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、3イニングスにつき1回の話し合いが認められる。  
ただし、攻撃側の責めに帰せないタイム中（例えば、守備側が投手のもとに集まっているとき、選手が負傷したとき、選手の交代のときなど）に話し合いを持っても、さらに試合を遅延させない限り、回数には数えない。

附 則  
この規則は、平成27年2月3日より施行する。

附 則  
この規則は、平成31年2月15日より一部を改正する。

# 「2019年度スピードアップ・マナーアップ要綱」

## ～アップに愛される、魅力ある社会人野球をつくるためにスピードアップ・マナーアップを目指そう～

戦路に富んだ日本の野球の良い点を消さずに、現行で“長い”無駄な時間が多い”とされている試合時間を短縮し、魅力あるかつ国際基準に適合した社会人野球を実現するには、監督・チームならびに審判員が一体となった協力不可欠である。

競技力向上委員会/規則・審判委員会

項 目	具 体 的 内 容	罰 則	対 応 方 法	関 連 規 則
1) 20秒ルールの徹底	<p>走者がいる場合は従来通り20秒ルールを適用する。ただしいずれの場合も投手がボールを受けしてからカウントする。</p> <p>①打者は理由なくして打席を外すことはできない。                      (備足を動かさない指導の徹底)</p> <p>②捕手は速やかに投手へ返球し、サインの交換も迅速に行う。</p> <p>③次打者は速やかに打席に入る。</p> <p>*捕手・打者の行動が影響するのでお互いにスピードアップの増進を尊重すること。</p>	<p>・走者がいる場合、現行通り球審が警告を発する。同じ投手が3度までの警告には罰則はないが、3度目は1ボールを宣告する。(走者に進塁権はない)しかし、審判員が遅延行為と判断すれば、規則に即りボールを宣告する。</p> <p>・打者が理由無く、打席に入らうとしないか、打撃姿勢をとりとうとしないか、球審はただちにストライクを宣告する。</p>	<p>・投手に対して、早く投手板を踏むよう、及び早く投球姿勢を取るよう審判員が積極的に促す。</p> <p>・打者に對して、早く打席に入るよう、又早く打撃姿勢をとるよう積極的に促すとともに、せやみに打席を外さないよう注意する。</p> <p>・二塁塁審がストロウアウトで計測する</p> <p>・「塁に牽制球を送球したとき」はリセットする。</p>	<p>・野球規則 5.04 (b)</p> <p>・日本野球連盟 (社会人野球) 内規 18</p>
2) 45秒ルールの徹底	<p>球審がタイムをかけてから45秒以内に打合せを終了する。タイムをかけた際には、監督またはコーチは小走りで集散する習慣をつける。</p>			<p>・日本野球連盟 (社会人野球) 内規 14</p>
3) 内野手 (捕手も含む)	<p>内野手 (捕手を含む) は1イニングに1回1人だけ投手のところにいくことが許される。ただし、リリーフ投手が準備投球を終えた後に捕手がマウンドに行っても回数に数えない。</p>			<p>・スピードアップに関する監督申し合わせ事項 (監督の行動)</p>
4) 攻撃タイム	<p>攻撃側は9イニングに3回の作戦タイムをとることができる。</p>			
5) 投手交代	<p>4回目のタイムまたは1イニングに2回目のタイムの時には監督は行く前に交代を告げること。</p>			
6) 攻守交替	<p>ゲーム中の全ての行動を迅速に行う。(歩かない、小走りで)</p> <p>ランナー・スローチャーも歩かずに小走りで移動する。</p>	<p>7. 8. 9項についての罰則はないが、審判員が選手及び監督に厳重注意する。</p>		
7) サインの伝達	<p>打者が打席を離れてサインを見ることを禁止する。(少なくとも触足は打席内においてサインを見ること。)</p> <p>走者はフットガード、チームガード着脱を速やかに行う。</p>			
8) 防具の着脱	<p>捕手が投球を受けたときボールの球をストライクに見せる意図でミットを動かす行為を禁止する。</p>			
1) ミットの移動の禁止	<p>走者から打者へのサインの伝達禁止。紛らわしい動作をしない。</p>			
2) サイン盗み行為の厳禁	<p>相手チーム・審判員への中傷的な野次の禁止。</p>	<p>審判員 (球審判員含む) が誤りしき行為と認められた場合、当該監督に厳重注意し、違反と認められた場合は監督の退場もあり得る。</p>	<p>控審判員がそのような行為があるか否か監視する。又は相手チームの知識があり、その後に違反行為とみなされるか否か大会本部役員も監視する。</p>	
3) 汚い野次の禁止		<p>当該監督に厳重注意し、その後野次が続いた場合は退場もあり得る。</p>	<p>同上。</p>	
4) ユニフォーム着用時の喫煙について	<p>ユニフォーム着用時の喫煙を一切禁止する。</p>	<p>罰則は無いが、判明した場合は連盟より警告状をチーム野球部長へ送付する。</p>		
5) バットの素振りの禁止	<p>初回または投手交代時に全員がベンチ前に出て投手のモーションに合わせて素振りをすることを禁止する。</p>			
6) サインの伝達	<p>走者・打者間の手を上げるなどのサインミソ合わせ、監督の長いサインを禁止する。</p>			
7) ユニフォームのズボン	<p>すそ巾の広いストリートタイアのズボンの着用を禁止する。(通達事項)</p>			
8) 首輪 (リング) の禁止	<p>首輪 (リング) については、ユニフォームの外から見えないように身につけるべきものとし隠見するものは禁止する。(通達事項)</p>			
9) 出迎を禁止	<p>本塁打・投手交代・攻守交替などベンチから出での迎え入れを禁止する。</p>			
審判員	<p>ゲームの進行役としての意識付けを行う。</p> <p>①審判の役割として、スピードアップエクササイズに進行するように積極的に監督・選手に働きかける。</p> <p>②警告・罰則に関しては適正かつ厳正に行進する。</p> <p>ルーカ通りのストライクゾーンの徹底を図る。</p>			<p>・野球規則定巻 74</p>